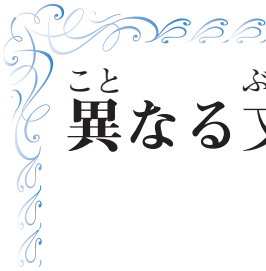


<第10号>

〒981-8555
仙台市青葉区堤通
雨宮町1番1号
東北大学農学部・
農学研究科
国際交流委員会
No.10 March 2010

みどり 緑のかけはし

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)



こと ぶんか まな じゅうようせい 異なる文化を学ぶことの重要性

わたし りゅうがくけいけん —私の留学経験から—



こくさいこうりゅう いんかいふく いんちよう 原田 昌彦
国際交流委員会副委員長

現在、数多くの留学生が東北大学で教育を受け、研究を行っています。私が学生だった頃に比べても、キャンパス内で多くの留学生を見かけるようになりました。国や大学も、留学生の学生生活をサポートするために、学生寮の整備、奨学金、相談室の設置、ティーチングアシスタントの配置などを行なっていると聞いています。私も教員のひとりとして、留学生が東北大学で多くを学び、また仙台での生活を大いに楽しんでくれることを望んでいます。

私も、留学生として海外の研究室で一年余りを過ごしたことがあります。私はその留学期間中に、日本とは異なる文化を、研究の面、生活の面で様々な体験することができました。そのことは、私にとって大変重要な経験となっています。

今から十数年前、すでに大学の教員となっていた私は、オーストリアのウィーンにある研究所に留学しました。これまで海外の学会などにも参加したことがなかったため、大変不安だったことを覚えています。また、オーストリアの公用語はドイツ語ですが、私はドイツ語の文法はおろか、単語もほとんど知らないような状態でした。そのような私ですが、ホストであるウィントースパーガー教授は温かく私を迎えてくれました。

教授の研究室での研究を始めて一番驚いたことは、実験器具・器機が日本のものに比べて古く、数も少ない、ということでした。私は、年配の女性のテクニシャンと一緒に研究を進めることになりました。彼女は教授に次ぐ研究キャリアがある経験豊かなテクニシャンでした。しかしその一方で、自分の実験方法に頑固にこだわり、私が日本の研究室で用いていた実験方法を認めようとしません。私自身も、彼女の方法はやや古くさく思えたので、自分の実験方法を変えようとはしませんでした。ついには、ひと月もたたないうちに、「マサヒコ、お前の実験方法は間違っている!」、「いや、間違っていない!そちらの方が古い方法だ!」と大喧嘩になってしまいました。その日は私はそのまま帰宅してしまい、翌日、重い気分で研究室に行くと、彼女が「今日からは、お前の方法で実験しよう。」と声をかけてきました。話を聞くと、私が帰宅した後、私の実験方法を試してみたいらしいのです。それをきっかけにして、私も彼女の「古い」実験方法もいろいろ試してみようようになりました。その結果、私が「古い」と思っていた実験方法にも数々の利点があることに気がつきました。例えば、時間は長くかかるが、測定条件が変わっても安定した結果が出るような方法などを知ることができました。結果として「日本」と「オーストリア」の研究室の二つの文化を学べたことは、その後の私の研究にとっても大変役立っています。

研究については、二つの研究室での「文化」を学ぶのに少し時間がかかりましたが、生活の面ではオーストリアの文化は私にとって最初から魅力的で、食文化や芸術などにも積極的に触れて楽しみました。しかし、ドイツ語も少し分かるようになってきた頃、現地の方々とも交流をするようになると、今度は自分が「日本」の文化をきちんと説明

できないことに気がつきました。日本の宗教・芸術・音楽などについて質問を受けても、きちんと答えられません。その反省から、帰国後は、以前にも増して日本の文化について、その成立ちなどの詳細にまで興味を持って考え、楽しめるようになりました。

留学生の皆さんの日本での滞在が、祖国と日本の二つの異なる文化を学ぶ良い機会となることを願っています。また、日本人学生諸君も、留学生との交流することで、様々な異なる文化を学んでいただきたいと思います。

留 学 生 紹 介

昨年4月・10月に新たに留学生としていらっしゃる方々をご紹介します。

- 事 項
- | | |
|--------------------|----------|
| 1. 国籍 (2010.1.1現在) | 5. 研究テーマ |
| 2. 年齢 | 6. 出身校 |
| 3. 在籍課程 | 7. 趣味・特技 |
| 4. 所属分野 | 8. 自己紹介 |

趙 家 慧

1. 中国
2. 20歳
3. 学部1年
4. 未定
5. 未定
6. 東北育才学校
7. 柔道、絵を描くこと



8. 私は趙家慧と申します。2008年10月に来日し、2009年3月まで大阪日本語教育センターで勉強しました。2009年4月から東北大学で学部生として授業を受けています。今、東北大学学友会柔道部に入っており、勉強と部活動の両方を頑張りたいです。先端技術と新しい知識を学ぶだけでなく、日本の大学生らしい生活も経験したいです。

ティーを考慮した持続可能な開発政策」です。同様のテーマについて関心をお持ちでしたらぜひお話ししましょう。また私は、友情を築くことも大好きです。研究以外では、旅行が好きで、目下、仙台周辺を旅しています。さらに、興味を引く催し物があれば積極的に出かけて行きます。

カルナセナンダ Karnasenanda

1. インドネシア
2. 30歳
3. 大学院博士前期課程
4. 農業経営経済学
5. Evaluation of Sanitation with Biogas Technology Policy (Case Study in Mojokerto Municipality)
6. ブラウイジャヤ大学
7. 旅行、音楽鑑賞
8. はじめまして。Karnasenandaと申します。Karnaと呼んで下さい。私は東北大学のヒューマンセキュリティープログラムに入学しました。研究テーマは「ヒューマンセキュリ



パンギフタン マヌルン PANGIHUTAN MANURUNG

1. インドネシア
2. 29歳
3. 大学院博士前期課程
4. 国際開発学



5. Consensus-Oriented Approach in Overcoming Land Conflict in the Palm Oil Plantation Area in North Sumatra, Indonesia-A Case Study in the Area of PTPN-II (State-Owned Plantation Company)

6. 南スマトラ大学、ブラウイジャヤ大学

7. 読書、スポーツ、音楽鑑賞

8. 私はインドネシア出身のPangihutan Manurungと申します。東北大学とブラウイジャヤ大学との間のリンケージプログラム（ヒューマンセキュリティープログラム）の修士課程に在籍しており、国際開発学分野の米倉教授の指導を受けています。

韓 波

1. 中国
2. 29 歳
3. 大学院博士後期課程
4. 農業経営経済学
5. 中国市場における日本産米の販売
6. 曲阜師範大学
7. 旅行、バスケットボール



8. 私は中国山東省出身です。現在、農業経営経済学研究室に在籍しています。日本の農業や文化など、たくさんの方を勉強したいと思っています。皆さんどうぞ宜しくお願いいたします。

郭 晓 艳

1. 中国
2. 21 歳
3. 学部特別聴講学生
4. 水産資源化学
5. 冷凍食品の品質評価
6. 上海海洋大学
7. 旅行



8. 私は上海から来た郭と申します。一年間、特別聴講学生として水産資源化学研究室に在籍しています。専攻の分野についていろいろな知識を習得し、また、日本の文化について日頃の会話や生活・お祭りへの参加・テレビなどから学んでいます。一年は短いですが、私にとって大切な経験がえられる一年です。

金 銀 輝

1. 中国
2. 38 歳
3. 学部研究生
4. 国際開発学
5. 中国における米の流通チャンネルの研究
6. 中国延辺大学
7. サッカー、中華料理



8. 2001年に妻と共に来日しました。しかし、二人とも学校に通うのは経済的にかなり厳しいといわざるを得ませんでした。そして、家計を維持するために進学を諦めることを余儀なくされました。今、経済的には余裕ができましたが年齢的に若くはありません。この経験から時間の大切さがありました。日本に来た初心を忘れず、原点に戻って本格的に勉強に専念しようと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

王 毓 度

1. 中国
2. 24 歳
3. 学部研究生
4. フィールド社会技術学
5. 地理的表示の有効利用による地域経済の活性化
6. 中国中南财经政法大学
7. スポーツ



8. 皆さんこんにちは。私は王毓度と申します。中国から来た留学生です。2007年10月から日本での留学生活が始まり、昨年4月から東北大学に入り、フィールド社会技術学研究室で研究を進めて来ました。私は都市で育ちましたが、出身地が所属している省（日本の県と同じ行政単位）は農業を核として発展しているところです。農村部と都市部との巨大な格差を実感しており、自己の研究でふるさとへの発展に役に立つことができるように頑張りたいと思います。これからも宜しくお願いします。

威 廉

1. 中国
2. 25 歳
3. 学部研究生
4. 国際開発学
5. 中国における農業補助金制度に関する研究
6. 中国北京交通大学
7. 音楽鑑賞



8. 私の出身は中国の内モンゴルです。日本に来てから充実した日々を送っています。春のお花見、夏の七夕、秋の芋煮会、冬の光のページェントをととても楽しんでます。嬉しい時も悲しい時もありますが、諦めずに頑張りを続けていきたいです。

金 喆 純

1. 韓国
2. 43 歳
3. 学部研究生
4. 農業経営経済学
5. 自然循環農業の実践方案に関する研究
6. 韓国嶺南大学校
7. 釣り、有機農業



8. 初めまして、研究生のキムチヨルスンと申します。韓国で大学の農学部を卒業して以来、公務員として社会生活をしながら日本語の勉強をしました。今の目標は、農業経営経済学分野で決めた研究をしながらいろいろな日本文化を体験することです。2009年10月に来たばかりですが、

皆さんと共に楽しい留学生活ができるように頑張りたいです。どうぞよろしくお願ひします。

モハメド シダメッド アハメド
Mohammed Seedahmed Ahmed

1. スーダン
2. 27歳
3. 学部研究生
4. 園芸学
5. Functional analysis of some useful promoters



6. Alneelain University
 7. 絵を描くこと、サッカー
 8. 私はスーダン北部マガシ出身のシダメッドと申します。周りの皆さんからはいつもシダと呼ばれています。去年の10月に初めて日本にきました。日本語は少ししか話せませんが、日本人の友達がたくさんできました。今年からTUMCAの会長になります。TUMCAは東北大学イスラム文化協会です。どうぞ宜しくお願ひします。

ばお し ずう
包 石 柱

1. 中国
2. 28歳
3. 学部研究生
4. 農業経営経済学
5. 内モンゴルにおける農牧業機械化の普及条件に関する研究
6. 内モンゴル民族高等専科学校
7. スポーツ (バドミントン、バレーボール)
8. 私は包石柱と申します。内モンゴルから参りました。中国内モンゴル民族高等専科学校でマーケティングについて勉強し、卒業しました。今後は農業経営経済学について勉強する予定です。



う しょう みる
烏 晓 明

1. 中国
2. 27歳
3. 学部研究生
4. 生物生産情報システム学
5. 未定
6. 内モンゴル農業大学
7. バスケットボール、旅行
8. 私は烏と申します。中国の内モンゴル農業大学を卒業しました。日本に来る前に、中国で約3年間働いていましたが、知識と経験を蓄えるために日本に来ることを決めました。現在、生物生産情報システム学分野の研究生として専門技術と知識、日本語を修得するための勉強を一生懸命頑張っております。皆さんどうぞ宜しくお願ひいたします。



そ り とく
苏 黎 特

1. 中国
2. 27歳
3. 学部研究生
4. 動物資源化学
5. 酪農用乳酸菌の特性解析
6. 大連民族大学
7. 音楽鑑賞、サッカー
8. 私は苏黎特と申します。2006年に大連民族大学を卒業し、現在は動物資源科学分野の研究生です。日本の長い歴史や奥深い文化、そして高度に発達した科学技術に対して尊敬しています。これらを習得したいと思っていますので、皆さんどうぞ宜しくお願ひ致します。



こう えい きやう
黄 永 强

1. 中国
2. 25歳
3. 学部研究生
4. 集団遺伝情報システム学
5. 未定
6. 福建農林大学
7. 音楽鑑賞、バスケットボール
8. 私は黄永强と申します。2009年10月に中国の福建省から来ました。趣味はいろいろありますが、一番好きなのはバスケットボールです。現在、集団遺伝情報システム学分野の研究生で、水産遺伝育種について勉強したいと思っています。来日して以来、良い日本人の友人と出会い、勉強や生活などについて助けていただいています。先生からご指導を受けることでさらに進歩できると信じています。



たん ぼう に
覃 梦 妮

1. 中国
2. 22歳
3. 学部研究生
4. 農業経営経済学
5. 農業保険の研究
6. 中国農業大学
7. 中国語、英語、読書
8. 私は明るくて活気のある性格です。日本のアニメが好きで日本語を勉強し始めました。現在、日本語が流暢になるように頑張っています。農業経営経済学に深い関心があります。入学試験に合格することを目指して頑張ります。



おりぎる
紅玉

- 1. 中国
- 2. 24歳
- 3. 学部研究生
- 4. 動物遺伝育種学
- 5. 家畜の育種改良に関する研究
- 6. 内モンゴル農業大学



7. スポーツ、ダンス、色々な人と友達になって話をする
 8. 私はオリギルと申します。24歳のモンゴル民族の男性です。去年10月1日に内モンゴルから来ました。現在、動物遺伝育種学研究室で勉強しています。日本の物価はちょっと高いですが、自然環境が美しく社会も安全ですし、日本人は親切なので私は大好きです。東北大学は有名な大学です。よい先生が多く、勉強する環境と雰囲気も整っているのだから良かったです。皆さん一緒に自分の目標のために頑張ってください。

ニコラス トリーン
Nicholas Treen

- 1. イギリス
- 2. 26歳
- 3. 学部研究生
- 4. 水圏動物生理学
- 5. 新規同定 GnRH によるホタテガイの人為的生殖制御
- 6. ロンドン大学キングズ・カレッジ・ロンドン
- 7. 剣道、料理
- 8. 4月に仙台に来た時、私は榴ヶ岡公園で梅酒を飲みました。



それは甘くてさわやかな味わいでした。またこの花見では、日本産の葡萄酒にも挑戦しました。こちらも大変おいしかったです。私は日本のビールがとりわけ暑い夏の気候に合う事気が付きました。私は繊細な苦みとまろやかな味わいがあるモルツが一番好きです。また、私は東北の沢山の地酒にも舌鼓を打ちました。名前を覚えることは出来ませんが、味の違いをとても楽しみました。先日、焼酎とそば湯の組み合わせが、寒い冬の夜によく効く事を発見しました。

おうぎょうれい
王晓丽

- 1. 中国
- 2. 23歳
- 3. 学部研究生
- 4. 水産資源化学
- 5. 未定
- 6. 上海海洋大学
- 7. 旅行、映画鑑賞
- 8. 私は中国河南省出身の王と申します。日本へ来るのは2回



目です。一昨年、一年間仙台に滞在しましたが、日本にいての勉強や日本での生活は充実したものでした。今回も友達を大切にして、多くの知識と経験を蓄えたいと思います。

ふいふい
慧慧

- 1. 中国
- 2. 24歳
- 3. 学部研究生
- 4. 国際開発学
- 5. 発展途上国・地域の農業経済の発展傾向と原住民の文化
- 6. 内モンゴル農業大学
- 7. 乗馬、ダンス、旅行、家事



8. 私はモンゴル人です。国籍は中国ですが、内モンゴルのフルンボイルの大草原から来た遊牧民出身のモンゴル人です。興味を持っていることはたくさんありますが、特に馬に乗ることが大好きです。みなさん、いつか機会がありましたら私の家に来てください。草原を見ることができると馬にも乗れます！

じよほうき
徐鵬淇

- 1. 中国
- 2. 24歳
- 3. 学部研究生
- 4. 地域計画学
- 5. 自然生態系と地域経済の関係についての研究
- 6. 東北農業大学



7. スポーツ、映画鑑賞
 8. 私は中国黒竜江省の出身で、2008年10月に日本に来たばかりです。日本語があまり上手ではないので毎日日本語を勉強しています。新しい環境に慣れるため一生懸命頑張ります。皆さんこれからどうぞよろしくお祈りします。

ぞうちゅうい
鄒中偉

- 1. 中国
- 2. 26歳
- 3. 大学院研究生
- 4. 植物遺伝育種学
- 5. Physical mapping of Raphanus genome for efficient gene identification
- 6. 南京農業大学
- 7. 読書、サッカー
- 8. 昨年の夏、南京農業大学で修士課程を終え、研究を続ける



ために政府より派遣されて東北大学に参りました。現在、植物遺伝育種学分野の研究生で、来年度、博士課程に進む予定です。日本語の勉強を頑張っていますので、まもなく皆さんと日本語でコミュニケーションを取れるようになるでしょう。

アザデー バマニ
AZADEH BAHMANI

1. イラン
2. 27歳
3. 大学院研究生
4. 植物遺伝育種学



5. アブラナとダイコンのDNA多型解析
6. バヤメヌール大学
7. 水泳
8. 私は去年、夫と一緒に日本へ来ました。日本の文化や食べ物、私たちがのものは全く異なり、最初は驚きました。私はイランのカーシャーンというとても古い街で生まれました。Googleで“tape sialk”と検索してみてください。私たちの街がとても古く歴史ある街だということがわかったと思います。私は大学で植物学を専攻し、遺伝育種学を学ぶために東北大学へ来ました。この分野を学ぶためにがんばりたいと思います。

平成21年度学術交流協定校間交流および活動実績報告

ラキユラ大学実験医学部 (イタリア)、スウェーデン農科大学獣医学部、
済州大学動物資源学科 (韓国)

動物生殖科学分野 教授 佐藤英明

●ラキユラ大学実験医学部

2008年4月に発生したイタリア中部大地震により大きな被害を受け、共同研究先のメンバーは一時的にラキユラ大学を離れたが、再度結集して研究を再開した。また2008年末の教授会で承認された交流協定の延長はラキユラ大学においても承認された。なお、共同で行った研究が相手側の努力によって次の論文になった。Cecconi, S., Rossi, G., Santilli, A., Palmerini, M. G., Stefano, L. D., Hoshino, Y., Sato, E., Micchiarelli, G.: Akt expression in mouse oocytes matured in vivo and in vitro. RBM Online, in press, 2010。また、XXI International Symposium on Morphological Science がイタリア解剖学会とのジョイントで今年9月18日-22日、イタリア、メッシーナで開催されるが、ローマ大学解剖学教室と協力して、Reproductionに関するセッションを実施することとなり、佐藤英明(動物生殖科学分野教授)とG. Macchiarelli(ラキユラ大学教授)が座長を務めることとなった。Bentham Science が電子ジャーナルとして創刊したThe Open Anatomy Journal では佐藤英明(動物生殖科学分野教授)が編集委員長として雑誌編集にあたっているが、G. Macchiarelli(ラキユラ大学教授)に副編集委員長をお願いし、快諾を得た。過去、数回、動物生殖科学分野に滞在し研究を行ったことのあるPalmerini Maria Grazia博士は地震で実家が全壊し落ち込んでいたが、最近、彼女から「妊娠し、春には出産予定」との喜びの連絡があった。

●スウェーデン農科大学獣医学部

Heriberto Rodriguez-Martinez教授と佐藤英明(動物生殖科学分野教授)は編集委員長、副編集委員長としてReproduction in Domestic Animalsの編集にあたり、度々、雑誌編集について意見交換しているが、2009年度においては特に訪問など人的交流はなかった。Heriberto Rodriguez-Martinez教授が取得した研究費について交付先から書面評価を依頼され、かつ電話によるインタビューも受けたが、高く評価するとともに研究費継続すべきとの返事をした。

● 済州大学動物資源学科

済州大学はソウル市内の建国大学に隣接して Stem Cell Research Center を設立したが、2009年11月より、Young Joon Han(動物生殖科学分野で2008年3月に博士号を取得)が研究員として勤務している。建国大学訪問時にセンターを見学したが、機器等充実しており、今後の発展が期待される。しかし設立して間もないにもかかわらず、「済州島ではなくなぜソウルに設置・維持するのか」との意見が学内で表面化し、センター長はその対応に追われている。研究センターの存続・発展のため、研究の質の向上、研究論文数の増加が課題とのことで電話などによる相談を受けている。11月に Chunbuk National University で開催された第3回アジア獣医解剖学会において Young Joon Han と動物生殖科学分野のメンバーが連名で研究発表を行った。また、済州島で飼育されている韓牛の体外受精技術による改良も重点課題とのことで技術開発に関する意見交換を行っている。交流先の康民秀教授(動物資源学科)は済州大学教授会会長に選任されたことから、管理運営に関する情報収集に努めており、時々、意見をもとめられる。

中国海洋大学・上海海洋大学

水産資源化学分野 教授 佐藤 実

平成21年度中国海洋大学および上海海洋大学との交流は、文部科学省の公募事業「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に、全国13大学の一つに東北大学農学部海洋生物科学系の提案が採択されたことで、大きく前進した。本事業は、優れた留学生の獲得や戦略的な国際連携により、大学の国際競争力の強化、留学生等に魅力的な水準の教育等を英語授業で提供するとともに、留学生と共に学生が切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材を養成することを目的に、本年度からスタートした事業である。東北大学では、学部レベルでは工学部国際機械工学コース、理学部先端物質科学コースとともに農学部海洋生物科学コースが採択されたものである。早速、開設準備のために、9月には本学海洋生物科学系から木島副学長、尾定教授、池田准教授が中国海洋大学および上海海洋大学を訪問し、それぞれの大学の学長、副学長などと意見を交換した。さらに、平成22年1月から2月にかけて、中国海洋大学から薫双林副学長、李琪教授、趙慶礼教授が、上海海洋大学から程裕東副学長、王錫昌教授、奚印慈副教授が東北大学大学院農学研究科を訪問された。いずれの訪問時にも教員国際交流担当の根元理事や木島副学長、工藤農学研究科長との意見交換をはじめ、海洋生物科学系教員との打ち合わせを行い、学生獲得に向けた具体的な打ち合わせを行った。その合間をみて、中国海洋大学の李教授が「海産貝類の遺伝育種に関する研究」の題目で、また、上海海洋大学の程副学長は「変換期における大学教育の質の向上—その条件、方策および実践」の題目で講演をしていただいた。いずれも多く多くの学生、職員が参加し、活発な質疑がなされた。中国海洋大学も上海海洋大学も



根元理事・木島副学長表敬訪問



海洋生物科学系職員との昼食会・意見交換会

すでに英語による外国人向けの教育をスタートさせており、今回の交流を通じ、実情紹介や実質化のための詳細な情報提供がなされ、実り多い交流になった。

交流といえば、上海海洋大学との交流はさらに充実しており、今年度は郭曉艳君が来日し特別聴講学生として勉学に励んだが、来年度は解宇晨君と沈晨君の二名が来日し、勉学に励む予定である。また、これまで東北大学農学部で特別聴講学生として学んだ学生の中の于慧君と王晓丽君が再来日し、水産資源化学分野で共に大学院（博士課程、修士課程）で学んでいる。

グローバル30教育プログラムと合わせ、いずれの大学との交流が今後ますます活発になるものと考えている。

セント・イストヴァン大学（ハンガリー）

複合生態フィールド教育研究センター 栽培植物環境科学分野 教授 齋藤 雅典

本学部は元・学部長木村修一先生の時代より同大学と交流を続けてきた。平成21年度は、本学で博士号を取得したアツティラ・オンボディ博士（現在、セントイストヴァン大学農業環境学部園芸学科准教授）が関係研究者とともに、8月に本学（土壌立地学、園芸学および栽培植物環境科学の各分野）を訪問し、研究情報の交換等を行った。オンボディ博士は、わが国で開発された肥効調節型肥料のハンガリーにおける普及に力を注いでおり、今回の訪問も、関連する最新の研究情報の収集が目的であった。今後、JSPSの海外特別研究員制度等を利用して、両大学の交流をさらに発展させることが必要である。

揚州大学（中国）

機能形態学分野 教授 山口 高弘

東北大学農学研究科は、2004年12月に揚州大学動物科学技術学院と学部間交流協定を結び、2008年6月には、東北大学と揚州大学の学術交流協定に発展しました。その後、毎年活発な教員・学生学術交流を行なっています。

2009年度は日本学術振興会が実施する中国との二国間学術交流事業の一環として揚州大学動物科学技術学院・趙国琦教授が東北大学農学研究科を訪問（7/26-8/13）し、私と「乳牛の生産技術向上に関する研究・調査」に関する共同研究を行ないました。また、滞在期間中の8月3日から4日の間、那須の畜産草地研究所を訪問し、日本の研究者と日本の酪農について意見交換を行ないました。

11月8日から25日には、揚州大学と東北大学との大学間交流協定に基づき、揚州大学動物科学技術学院のポストドクの魏文志さんと大学院生の孫敏さん、金曉君さんの学生3名が本研究科を訪問しました。この間、両大学の大学院生の相互学術交流を図るため、大学院生を中心とした動物科学に関するゼミ、情報交換、見学等が行なわれ、相互交流を深めました。

さらに、2010年1月10日から3月10日の2ヶ月間、日本学術振興会の外国人招聘研究者事業（短期）に基づき中国揚州大学動物科学技術学院の陳国宏教授が本研究科を訪問しました。陳教授は、「家畜・家禽の産肉能力と効率的な産肉システムに関する研究の推進と発達」に関して、本学を拠点として、宇都宮大学農学部、名古屋大学大学院生命農学研究科附属鳥類バイオサイエンスセンター、広島大学大学院生物圏科学研究科、全農飼料研究所、農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所、東京農工大学大学院農学研究科を訪問し、研究討議、講演を通して多くの研究者と有意義な情報交換を行ないました。

このように、今年度は本学と揚州大学との教員・大学院生のより活発な学術交流の推進が図られました。

■ ウプサラ大学 (スウェーデン) ■

ふくごうせいいたい 複合生態フィールド教育研究センター きょういくけんきゅう 生物学研究センター せいぶつきょうせい 生物共生科学分野 じゆんきょうじゆ 准教授 す 陶 やま 山 よし 佳 ひさ 久

ウプサラ大学の研究者との交流は7年ほど前から続いており、本年度も一度ウプサラを訪問する機会に恵まれた。共同研究のテーマは、湖の底に堆積した針葉樹の花粉を材料としたDNA分析である。同大学のLaura Parducci博士とは、長い間家族を含めたおつきあいをさせてもらっており、今回は夏休みで彼女の家を訪れたご両親や友人などと一緒に交流を深めることとなった。その友人の一人は、たまたま私自身とも以前に国際学会で会ったことのあるポルトガルの研究者で、思わぬところで旧交を深めることとなった。休日には、ご家族やその友人とともに観光にでかけ、真夏のスウェーデンのよい思い出として残っている。

国際学術交流や共同研究を進める場面においても、それがうまくいかいかないかは、結局は人間的な交流が大きなウエイトを占めているのを楽しみ感じる。現実的には、お互いの国のシステムや文化の違いなどによって、話がスムーズに進まないこともあるが、人としての信頼関係があれば、それらの違いはむしろ魅力的なものにもなり、幅広く深い交流に結びつく。

これからも人間的な交流を大切にしながら、特に来年度はこれまでに築いてきた良好な関係を学生や他の研究者仲間にも広げ、より充実した交流を続けて行きたいと考えている。



ウプサラ大学の進化生物学研究センター



ご家族と一緒に休日に訪れた近くの湖。静かな針葉樹林に囲まれた美しい湖には小さな島があり、そこまで泳いで行って日光浴や飛び込みを楽しんだ。

■ ボゴール農科大学・ブラウイジャヤ大学等 (インドネシア) ■

こくさいかいはつがくぶん や 国際開発学分野 きょうじゆ 教授 よね 米 くら 倉 ひとし 等
じよきょう 助教 かわ 川 しま 島 しげ 滋 かず 和

農学研究科と環境科学研究科が世話部局となり、インドネシアでも最も評価の高い有力校のひとつボゴール農科大学と、大学間協定の締結作業を進めた。同学は、農学系が中心であるものの9学部を抱えた実質的な総合大学である。インドネシアの独立後、現在のインドネシア大学、バンドン工科大学と合わせてひとつの国立大学としてスタートした。その後1963年にボゴール農科大学として独立の大学となり、現在は国立大学法人化されている。さまざまな分野で人材を輩出し、例えば、最近の農業大臣は3代続けてボゴール農科大学の現役教授である。本年度7月末に、米倉教授、川島助教が同大学を訪



ボゴール農科大学にて、大学間協定締結予備交渉

もん きょうていでいけつ よび こうしゅう おこな きほんてき りょうかい え
 問し協定締結の予備交渉を行い、基本的な了解を得た。
 ねん どまつ ていけつしき せんだい じっし み こみ みである。
 年度末までに締結式を仙台で実施できる見込みである。

あわせて、バンドンにあるパジャジャラン大学大学院
 (大学院としてひとつのファカルティを構成し、農学系
 の研究が中心)とも年度内に部局間協定を結ぶべく準備
 中である。パジャジャラン大学大学院の国際交流担当者
 3名が2009年10月本研究科を訪問し、東北大学に留学
 生を送りたい旨の申し出があった。奨学金等を含む実施
 プログラムが具体的で交流の実績が上がるのが期待さ
 れ、直ちに協定締結の方向で対応することとなった。

2006年に大学間協定を締結したガジャマダ大学とは、
 本年度、農学部社会経済学科のジャムハリ准教授の協力
 を得て、米倉と川島が、ジャワ島最長の河川であるソロ
 川の最上流域にあって土壌流亡など環境的に厳しい人口
 稠密な畑作貧困地帯を調査した。他方、本研究科が参加
 するヒューマンセキュリティ・プログラム(大学院レベ
 ル)では、ブラウイジャヤ大学経営学部と結んだりンケー
 ジプログラムによって、前期課程に2人の留学生を受け
 入れた。

また、グローバル30プログラムの一環として、バン
 ドン工科大学において東北大学デイが年度末3月18日、
 19日に開催される。農学研究科からも研究科長以下総
 勢6名がこれに参加、國分教授、川島助教が講演を行う。
 この機会に前記のインドネシアの有力大学との交流を進
 んだ。当農学研究科の広報、留学生募集活動等を積極
 的に行う予定である。



ガジャマダ大学農学部社会経済学科教授陣との懇親会



ブラウイジャヤ大学経営学部・大学院コース

し せつけんがく じっし 施設見学の実施

1月16日に農学部・農学研究科に在籍する留学生を対象に、日本の工場施設や歴史文化遺跡を見学してもらい、そして留学生同士の交流を図るため、仙台近郊のニッカウキスキー宮城峡蒸溜所と立石寺(山寺)への旅行が実施されました。

以下は参加者の感想です。

まくもつがくぶん や
 作物学分野

モハメド アリーフ ソレー
Mochamad Arief Soleh

この見学旅行は普段はそれぞれ異なる研究室で学んでいる留学生同士を結び付ける上で重要なものです。旅行中、留学生同士だけではなく同行して下さった先生や職員の方々とも親しく交流できます。毎日のルーティンワークで生活が単調になりがちなので、私はこの旅行をととても楽しみにしていました。旅行の間中どこでも降り積もった雪があり美しい景色を見ることができました。

目的地はニッカウイスキーと山寺です。車中、バスガイドさんが時おり愉快的なジョークを言い、旅をより魅力的なものにしてくれました。私は日本語をまだ完全には理解できないのですが、ガイドさんが話していることは十分想像できたのでこの状況を楽しむことができました。

まず初めに、日本のウイスキー製造のパイオニアとして知られるニッカウイスキーを訪れました。風光明媚な土地に建てられた趣のある蒸留所の建物の屋根の上にはたくさんの雪。このような光景は私にとってもとても新鮮です。良質のウイスキーを作るために開発に何年もの長い時間を要した様々な種類のウイスキーを紹介していただきました。また、おいしいウイスキーには「水」も重要とのことで、周囲には美しい水を湛えた新川川と広瀬川がありました。

次は山寺です。山を登って行くにしたがっていくつかのお堂がありますが、雪が激しく降っていたので山へは登らずに麓から上方を眺め、麓の大きなお堂の前で参加者全員で記念写真を撮りました。

次回の見学旅行もより楽しく、より多くの未知の物事に触れる機会となることを願っています。そして、この旅行をお世話してくださった国際交流委員会の先生方に感謝申し上げます。

水産資源化学分野 于 慧

山形県境に近く、豊かな森に囲まれ、赤煉瓦の建物が並んできれいなニッカウイスキー仙台工場宮城峡蒸留所に見学に行ってきました。とても楽しくて、充実したものでした。そこで、蒸留棟やキルン塔、貯蔵庫などを回りながら、案内係の方がウイスキーの製造工程や歴史について丁寧に紹介してくださり勉強になりました。一番感動したのは貯蔵庫でしたが、オーク材の匂いとウイスキーの匂いが混じった香りが鼻を刺し、暗い倉庫に整然と並べてある大量の樽を眺めていると別の国にきたような感覚がしました。見学後、ウイスキーの水割り方法を教わりながら、おいしく試飲しました。また、山形県にある山寺も見に行きました。山形県側はたくさん雪があり、みんな盛り上がり雪だるまを作りました。雪の降り積もった山寺はとても静かで、秋に来て見た風景とまったく違っており、墨絵の様になっていてもきれいでした。今回の見学は私には貴重な体験で、また、留学生や先生方と交流もできてすばらしかったと思います。来年も楽しい経験ができることを期待しております。



生物生産情報システム学分野 乌 晓 明

2010年1月16日、農学研究科国際交流委員会が開催して下さった留学生のための施設見学旅行に参加しました。農学部を出発しニッカウイスキー宮城峡蒸留所へ行く途中、外の雪景色を楽しみながらいろいろな面白い話題で各国の留学生たちと互いに異文化交流をしてとても楽しかったです。

ニッカウイスキー宮城峡蒸留所に到着すると、自然の美しさを見てうっとりしました。皆さんも良い景色に酔い、写真を撮ったり、遊んだりして盛り上がりました。それから、見学ガイドさんによるウイスキー造りについての解説を聞いて、お酒の知識に詳しくなりました。

次は山形の山寺を見学して伝統的な日本文化を体験しました。大雪が降っていたため頂上まで登ることができなかったのは残念でしたが、今回の見学旅行で最も重要だったのは、国際交流委員会の先生方や留学生の皆さんと知り合って交流を深めたことだと思います。

今回の見学を通じて様々な珍しい体験をさせていただきました。見学旅行というだけでなく、各国の留学生と互いに異文化交流をするよい機会だと思います。国際交流委員会の先生方にこの機会をいただき本当に感謝しています。次のより楽しい見学旅行を心から期待しています。

動物遺伝育種学 紅玉

今回は私が日本に来てから初めての見学旅行でした。参加者は少数でしたがとても楽しかったです。私たちはニッカウイスキー仙台工場と山形県の山寺に行きました。

朝9時30分にバスで出発しました。車中、皆でいろいろな話をして楽しく過ごしながらニッカウイスキーに着きました。ウイスキー工場近くの木の皮は全部黒くなっています。バスガイドさんの説明を聞いてびっくりしました。その木は全部アルコールで焼けていて、いわゆる酒焼けと云うのだそうです。新しく作られたばかりのウイスキーは無色です。5年経過したウイスキーは薄い黄色、12年経ったウイスキーは少し濃い黄色になり、おいしそうな香りがします。ウイスキーは特別に作った樽で熟成させるのだそうです。本当に不思議なことです。毎日お酒を飲むのは体に悪いと思いますが、香りを楽しむのは良いかもしれません。そこには雪が15cmくらい積っていました。工場の近くの自然環境も本当にきれいです。私の生まれた故郷には山が全然ありませんのでこんなに雪が降った山の景色を初めて見てびっくりしました。

ニッカウイスキー工場を1時間ほど見学して山形県の山寺に行きました。山形県の雪はもっと多かったです。20cmくらい積っていました。途中、お店で昼ご飯を食べました。その店の隣に大きい滝がありました。滝も初めて見ました。白い雪の中で滝が流れているのは本当にきれいです。皆たくさん写真を撮りました。その店で1時間ぐら休んでから山寺に向いました。道沿いにはサクランボの木がいっぱいありました。山形県は果物の産地として日本で一番有名だと聞きました。今年また山形県に行って果物を食べたいです。

ようやく山寺に着いた時には雪が降っていたので、山寺に登ることができず残念でした。山寺の麓にある木ではたくさんの猿が柿を食べていました。可愛かったです。そこの近くの店で30分ほど休んでから帰ることになりました。その店には色々なお土産がありました。一番素敵なのは木で作った人形と色々な形の動物です。お店のご主人は私たちにおいしいりんごをごちそうしてくださいました。日本人は本当に親切です。

帰りは皆疲れていましたのでバスの中で寝ました。目を覚ました時ちょうど学校に着きました。一日の見学旅行はそこで終わりました。

このような活動は留学生に良いことだと思います。日本の様々な景色を見ながら日本人の習慣や歴史等を知ることができそうです。色々な友達を作ることでもでき、他の国の習慣も少しわかりました。今度の見学旅行に参加して楽しかったです。次の見学旅行を待っています。皆さん一緒に行きましょう。

国際交流支援室 安倍愛子

今年も年に一度の見学旅行に同行させていただきました。

訪問先のニッカウイスキー宮城峡蒸留所・山寺といえば、雪の多い地域にあるところですよ。折しも前日夜から雪が降り出したため天候の状況を心配しましたが、留学生の皆さんが雪景色をカメラに取めたり、雪だるまを作るという母国ではめったにできない経験をさせてくれることになり、むしろこの雪は旅の記憶をより鮮明に残してくれるきっかけとなるような僥倖だったかもしれません。

バスガイドの片倉さんは雪が吹雪く中、私たちと一緒にバスから降り、山寺周辺を案内してくださいました。途中立ち寄った店々では、地元名物のお菓子や地元産のりんごをご馳走していただき、行く先々でご厚意に触れることができました。

毎年この見学旅行に参加して思うことですが、外国からやってきた留学生の皆さんには、数年後、数十年後に良い思い出として懐かしく思い返すような経験をこの日本滞在中にたくさんして欲しいと心から願っています。